

## 出光美術館の軌跡 ここから、さきへ I

### 復刻開館記念展—仙厓・古唐津・中国磁器・オリエント

出光美術館（帝劇ビル9階） 24.04.23～05.19



「出光美術館」が帝劇ビル9階に誕生したのは1966（昭和41）年で、これまでに300回を超える展覧会が開催されてきたが、今回ビルの建替計画にともない2024年12月をもってしばらくの間「休館」することになった。

本展は、58年前の開館記念展の出品作品と展示構成を意識しながら企画され、「仙厓」（1750～1837）の書画、古唐津、中国の陶磁や青銅器、オリエントの美術は、初代館長の「出光佐三」が蒐集し愛蔵してきたもので、それぞれの作品には“たたえる飾り気のない美しさ”がある。



#### 仙厓《指月布袋画賛》 江戸時代

仙厓義梵（せんがいぎぼん）は、江戸時代の臨済宗古月派の禅僧・画家で、昭和初期には禅味溢れる絵画を描き「仙厓ブーム」として人気があった。

彼の禅画は、ほのぼのとした素朴な味わいがあり、自由な筆致で描かれているが、その中に“禅の教え”が教えこまれているとも称されている。



#### 《青銅饗饗文罍（せいどうとうてつもんか）》

一对 重要美術品

大きな丸い目と巨大な角や顎を持つ奇怪な怪獣の姿をした中国の商（殷）時代後期の饗饗（とうてつ）である。

「罍（か）」は、古代中国の酒を温める平底の器で、3つの脚が側面には把手が、口縁には2本の突起が付いているのが特徴である。